



あもにいの事業や活動をご紹介します

個性豊かなアイデアを具体化 ソーシャルビジネス基礎講座

今年度の起業家支援講座は「ソーシャルビジネス（社会問題の解決を目的としたビジネス）」に絞った講座を開催。主婦、防災士、司会業、プランナーなどさまざまな経験を持つ23人が参加しました。

「人口減少、財政緊迫…地方が抱えるリスクをチャンスに変えるのは、夢あふれる地域起業家にはかならない。ぜひ持続可能なアイデアをカタチにしてほしい」と講師の中川氏。参加者もワークを通して講師、隣同士と熱心に意見を交わしました。

2日目は、各人が自身のアイデアを発表。「震災後の熊本を盛り上げたい」「子育てに悩むママたちを助けたい」…それぞれの想いをどう事業化するかプレゼンし、講師からアドバイスを受けました。

交流会では皆いつまでも話が尽きない様子で、「多くのパワーあふれる話が聞けてやる気が出た」「前進する方向性を気づかせてもらった」「新たなネットワークができた」などの感想が聞かれました。

あもにいでは、今後も起業家を支援する講座を企画する予定です。



社会参画支援事業 起業家支援講座
ソーシャルビジネス基礎講座
実施日時：平成30年①8月29日(水) 10時～17時15分
②8月30日(木) 10時～14時40分
場所：学習室・食のアトリエ 参加者：①23名 ②22名
講師：中川直洋氏(公益財団法人みんなの夢をかなえる会専務理事)
事例発表者：渡邊智恵子氏(株式会社アバンティ代表取締役)

寂しい生活

稻垣えみ子 /著 東洋経済新報社

トレードマークはアフロヘア。原発事故をきっかけに節電生活を始めた稻垣さん。
「便利で快適」な暮らしを手放すなんて本当にできるのか？
まずは電気代半減を目指して、こまめにプラグを抜くなど地道に努力しますが、効果はありません。そんな中あるヒントを元に考えた「電気はないもの」とする発想を実際に移すことになります。その後、掃除機、電子レンジ、果ては冷蔵庫までも「やめる」生活に突入。小さなことでも挑戦し、諦めなかつた結果が、一人でも何とか生きていける今に繋がっていると、身をもって示しています。

欲しいものは次々と自分の前に現れます。本当に必要なものの存在について考える機会をしてくれる1冊です。

著者の稻垣えみ子氏講演会を
11月11日実施。詳細は表面参照

今月のえ・ほ・ん

「おそれり どうぞ」

ねずみさんのいはす、ちいさなまるいきのこのいす。
うさぎさんのいはす、おはないっぱいのいす。
りすさん、かえるさん…みんなにぴったりのいはすあるかしら。動物たちのかわいらしい仕草にっこり。愛らしい語りかけの絵本です。

10月恒例 よんでよんでの会
幼児室スタッフによるおススメ絵本の読み聞かせのほか、楽しい手遊びやふれあい遊び、紙芝居など!



わたしのギャラリー

あもにいでは、1階エレベーター前壁面を「わたしのギャラリー」として、展示を希望するグループに使っていただいています。8月20日(月)～9月2日(日)は、啓光教室様の習字の作品展示が開催されました。筆使いに一人ひとりの個性が光る展示でした。9月20日(木)～10月4日(木)までは清水公民館絵画教室様の絵画展示が始まります。ぜひお立ち寄りください。

「男性だつて怒つてほしい」

先月、「女子の夢」と題して、今春小学校を卒業した女子が挙げた「将来就きたい職業」のトップが「医師」であったこと。一方で、出産や子育て、介護などの両立に悩む女性医師にサポートが必要な現実。そこに起きた東京医科大の入試における女子受験者の一律減点不正操作のニュースについて触れました。

公正であるべき入試で不正が行われ、女性の医師への進出を阻んだ」と、一時多くの報道がなされました。対象となつた女子受験者と、同様の不正操作が行われた浪人回数の多い男子受験者の怒りや悲しみはいかばかりでしょう。

一方で、社会はもつと「どうしてそんなことをしたのか？」に焦点を当て、掘り下げて考えるべきではないでしょうか。

大学病院の医師は男性医師、それも若い方がいいのはなぜ？ 男性医師は出産しない（だから休まない）、育児や家事、介護をしない（だから長時間労働が可能）、若ければ結婚までに時間がかかり体力もある（だから仕事中のライフスタイルが可能）。そういった「能力」が期待されているということでしょうか。

であれば、男性だつて怒つてほしい。「男性だから休まず働くだろう」という前提の雇用や、自身の能力への評価基準に。

そもそも医療従事者には何が求められるのでしょうか。知識や技術だけでなく、心身の健康、人生経験の豊かさなどが生み出す「力」が人を元気にしてくれるのではないでしょうか。



館長 坂本ミオ

「男と女の△劇場」



～マンガで考える「男女共同参画」～

医科大学が入試で女子の人数を操作していた問題。「女性は結婚や出産を機に職場を離れることが多いので医師不足を避けたかった」との理由に世間の反応はさまざま。出産育児で現場を離ることは女性だけの問題でしょうか。結婚、子育て、介護など家庭と仕事の両立に悩み、泣く泣く離職・休職を選ぶ女性は少なくありませんが、では男性は？ 館長だよりもあわせ、考えてみませんか。

あもにい内 1F

ファミリー・サポート・センター〈熊本〉

子どもを預けたい方と預かりたい方とで作られる会員組織です。あもにいの正面入口から入って右側スペースに事務局があります。

お気軽にお問い合わせください。
※利用には登録が必要です

月曜日～土曜日 9:00～17:00

096-345-3011

総合相談室のご案内

相談は無料。秘密は守ります。
安心してご相談ください。

(一般相談専用電話)

096-343-8306

受付時間：火曜日～土曜日 10:00～16:00

(弁護士や臨床心理士による
専門相談の予約)

096-345-2587

受付時間：月曜日～金曜日 10:00～16:00